

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	江北町立江北小学校
1 前年度 評価結果の概要	・「学力の向上」については、引き続き学力向上評価シートを有効に活用し、普段の学習の状況や全国・県学習状況調査結果に結び付けていく。 ・「心の教育」「健康・体づくり」「地域との連携」については、コロナ禍の状況だが、限られた条件の中で取り組みを進めていく。 ・「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」の取り組みについては、テーマを決めての家族の会話が確保しながら、引き続き継続していく。
2 学校教育目標	自ら学び 心豊かに たくましく生きる江北の子の育成
3 本年度の重点目標	「子どもが学ぶ幸せ」「保護者が通わせる幸せ」「教職員が働く幸せ」を感じる江北小学校づくり ①学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学び合い、高まろうとする子どもの育成 ②自己肯定感を高め、個性を発揮し、相手のことを考えて行動する子どもの育成 ③健康・元気で、きまりを守り、のびのびと活動する子どもの育成

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				主な担当者						
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価						
				達成度(評価)	実施結果					
●学力の向上	○指導方法の改善	○「授業が分かる」「授業が楽しい」について「そう思う」「だいたいそう思う」という児童を90%以上にする。 ○算数、国語の単元末テストにおいて期待平均点以上にする。	・週1回の学習タイムにおいて、語い問題や計算問題などを行い、基礎的な学力を身に付けさせる。 ・テストなどの間違いは確実にやり直しをさせて、学習内容の定着を図る。 ・西部型授業を軸に児童が見通しをもって、取り組めるようにさせる。	B	・「授業が分かる」では、下学年が90%、上学年が83%とおおむね達成できた。「授業が楽しい」は、下学年が90%、上学年が71%であった。校内研究の取り組みを継続して、引き続き児童が意欲的に取り組める授業づくりを目指していく。 ・どの学年も期待平均点以上の結果であった。引き続き、学習内容の定着を図っていく。	B	・「授業が分かる」では、下学年が91%、上学年が89%であった。「授業が楽しい」では下学年が88%、上学年が71%であった。校内研究を通して児童が意欲的に取り組む授業を目指し、「授業が分かる」と答えた児童が前期よりも増えた。 ・国語と算数の単元末テストは、学校全体としては平均点以上であったが、中にはやや下回る教科、学年もみられた。理解が不十分とみられる内容の復習を今年度内に徹底し、次学年につなげていく。	B	・「授業が分かる」は、理解しているからつまらないのか気になる。もし後者なら、指導方法の改善が必要ではないかと思う。 ・全国を対象にした学力テストなどがあるが、小学生は体験から学びの方が大事な気がする。学力向上も大切だが、最重要ではないと思う。 ・いろいろな子がいるので評価がとても難しい。先生の指導方法の改善だけでは学力の向上につながると思わない。	少人数担当 学習部
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○互いの思いを伝え合う道徳科の授業づくりや体験活動、地域・家庭・中学校とのつながりを通して、心豊かにたくましく生きる児童を育成する。 ○正しい言葉遣いにおいて、肯定的な回答をした児童を90%以上にする。 ○早期発見、早期対応に加えて、いじめの未然防止と組織的対応に努める。 ○「認知」した場合は3か月後にすべての解消に導く。 ○いじめの防止や対応に組織的に取り組んでいる職員を90%以上にする。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童を80%以上にする。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・「考え、議論する」道徳科の授業を充実させる。 ・保護者の方や地域の方が参画できるふれあい道徳を実施する。 ・子どもの心を豊かにする時間「ハートタイム」を充実させる。 ・「月のこころ」やアンケートの結果を生かしたSGEを朝の時間などに設定し、仲間づくりにつながるよう、活動例の資料を整理し提案する。 ・挨拶の奨励を通して児童同士のつながりを深め、問題行動の抑制に努める。 ・児童のよいところを、学校生活全般で継続的に伝えていく意識を全職員がもつ。 ・継続的なキャリア教育を通して、児童に具体的な将来像をもたせる取組を実施する。	B	・ふれあい道徳授業では、多くの保護者の方や地域の方に参観いただいた。 ・月に1度のハートタイムが計画的に実施され、温かい雰囲気作りができている。 ・正しい言葉遣いにおいては90%の児童が肯定的な回答をしている。	B	・各学年に応じて、工夫を凝らした道徳の授業を行うことができている。 ・正しい言葉遣いにおいて肯定的な回答をした児童は85%、いじめのない学級づくりにおいて肯定的な回答をした児童は82%だった。引き続き、言葉遣いについて指導が必要である。 ・毎月、テーマを設定してハートタイムを実施した。	B	・継続することで改善と思う。 ・子どもたち同士の言葉遣いで悩つくことは多い。そのために学級づくりは本当に大事と思う。 ・子どもの価値観は、学校だけでなく、親や周囲の人の関わりの中で作られるものと思うので、ふれあい道徳の実施はよいと思う。 ・本来、言葉遣いについては、各家庭で親子で行うことと思うが、ハートタイムはこれからは継続してほしい。
●健康・体づくり	○交流活動(異学年による縦割り活動)の充実 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●安全に関する資質・能力の育成	○げんきグループで「活動に進んで取り組んでいる。」と答えた児童を80%以上にする。 ○げんきグループで活動する楽しさを80%以上の児童が感じられるようにする。 ○早寝早起き朝ごはんの実践できる家庭を90%以上にする。 ○健康な体を作るために「健康に良い食事をしている」と回答した児童を80%以上にする。 ○交通ルールを守って生活している児童を85%以上にする。	○げんきグループで、遊び活動を行う。 ・週に1度、げんきグループで掃除を行う。 ○げんきグループで体育大会の団を構成し、児童が自主的に活動できるようにする。 ・長期休業明けに設ける「生活ががんばり週間」で「早寝・早起き・朝ごはん」について自己評価させ、生活リズムの修正を促す。 ・担任は学校栄養職員や養護教諭と連携して食や生活習慣についての授業を全クラスで実施する。 ・6年生の総合の学習を通して、交通安全について啓発を行い、全校的な意識の向上を図る。	A	・6年生が、最上級生として、全員が参加できる内容を考えて、教師の助言を仰ぎながら計画・運営を行うことができた。 ・げんきグループの掃除では、仕事を振り分けることで、自分の掃除場所をきれいにしようとする責任感をもって活動に取り組む姿が見られた。 ・体育大会では、5・6年生が協力して応援合戦の練習に取り組むことができた。下級生は、高学年の指示を聞いたり、姿勢を真似たりしながら活動に取り組むことで、各団でまとまることができた。	A	・6年生は最上級生として、様々な活動で進んで計画・運営を行った。下級生は、6年生の計画したあそびを楽しんでいた。 ・アンケート「げんきグループの活動は楽しい。」の設問には、「そう思う」66%、「だいたいそう思う」26%と、合わせて9割以上の児童が回答した。また、「さがん夢先生」などの外部からの講師を招いて夢や目標をもつことの大切さを伝えてもらうことを通して、夢に向かって努力することの意識が高まった。	A	・良い取り組みなので、継続してほしい。いつも同じメンバーではなく入れ替えをしてほしい。 ・上級生の優しさ、下級生の上級生に対する信頼、人間形成にとってとても大事な活動と思う。 ・地区に子どもの数が少ないので、他の学年と関わる行事はよいと思う。	特活部部長
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日)を設定し、時間外勤務の削減を図る。 ・年次有給休暇を計画的に昨年度実績以上となるように呼び掛ける。	B	・生活ががんばり週間で、各学級で早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけをした。実践している家庭は、80%だった。引き続き呼びかけていく。 ・食生活の大切さを学ぶ授業を低学年で行ったり、高学年で生活習慣病について学習したりした。 ・交通安全教室の取組もあり、全校で90%の児童が交通ルールを守っていると回答した。	B	・後期の生活ががんばり週間でも、各学級で早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけをした。後期も80%の家庭が意識して実践していた。 ・防犯教室や薬物乱用防止教室を行った。食や生活習慣の大切さを児童に意識づけできるように、今後も各学年で計画的に指導していきたいことが必要である。 ・低学年、高学年、そして保護者についても、安全に関する項目に対して90%以上が肯定的な回答であった。交通安全から生活安全への意識の深化も感じられる。	B	・子どもたちに正しい食文化を伝えていくことは大事な教育。家庭との連携は重要だが大変。 ・知識として食について学ぶことも大切だが、実際に江北産の採れたての野菜を食べてみることも大切。 ・食生活と交通安全にとどまらず、防犯教室・薬物乱用防止教室の取り組みはますますほしい。生活安全への意識の深まりは、指導の成果と思う。	保健部部長 生活部部長
				B	・昨年度よりも時間外勤務時間が大幅に減ったが、全職員が、時間外在校等時間の上限を遵守することができなかった。今後も業務改善を図りつつ、さらなる時間外勤務の削減を図っていく。 ・年次休暇については、取得しやすい雰囲気づくりを心がけ、長期休業中に取得しやすいように研修等の期日を設定したことで昨年度(1人平均13.7日)よりも取得日数(1人平均17.4日)が増えた。	B	・ICT教育の浸透で授業の準備時間を軽減できる。また、教師間の情報共有などでもデジタルを活用すれば効率化が見込める。 ・少しずつ時間外勤務時間も減少している。 ・働き方改革は進んでいると思う。	B	・管理職(教頭)	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者				
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価				
				達成度(評価)	実施結果			
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○全ての職員が、児童の特性や困り原因となるものと考え、それを理解することができるように努め、よりよい手立てを考え支援する。「適切な手立てを考え支援している」と答える職員を90%以上にする。	・職員研修を行い、特別支援教育に対する理解を深める。 ・生活指導、教育相談および外部関係機関との連携を図り、ケース会議等で児童の支援体制を強化する。 ・支援ルーム啓発活動を充実させる。	A	・「適切な手立てを考え支援している」と答える職員が96%である。 ・研修や他機関との連携で支援体制を整えている。	A	・教育長の発言にもあったが、再度もとの学級に戻す取り組みが充実することを期待する。 ・インクルーシブという観点ではどのように他の児童への働きかけをしているか知りたい。 ・今後更に支援が必要な子どもが増えていくと思うので、支援体制の強化が必要。	特別支援コーディネーター (支援部)
○地域との連携、幼保・小中の連携	○地域との連携の推進 ○幼保・小中連携の推進	○ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー(30分未満)の全校の実施率80%以上 ○各団体との連携協議会等を年2回以上実施する。	・年3回児童自身が設定したノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデーの実施状況についてメール等でお知らせし、実施を促していく。 ・各協議会で得られた情報を共有化し、本校の取組に生かす。	B	・3回中、1回目の実施率は63%、2回目の実施率は74%であった。メールや保護者向け文書で実施を呼びかけているが、目標値には届いていない。児童、家庭の意識を向上させる手立てを講じていく。 ・コロナ禍で中止していた小中連携を再開させ、互いに研究授業を参観し、児童生徒理解を共有した。	B	・江北っ子応援団の団員を増やす努力をして、学校を応援したい、ノーテレビに関することは町内の放送で一般に広がっており、いいことと思う。 ・継続的な呼びかけ、家庭の協力が必須。 ・スマホの普及し、軽減が難しい。親が示さなければいけないと思う。親への指導が必要。 ・夜の1時間のゲームタイムが親子のふれあいの時間という家庭もある。 ・幼保連携協議会(研修)の実施ができれば良いと思う。	主幹

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・「学力の向上」については、校内研究を基軸として「だれもが分かりやすい授業」を目指して、授業の改善、職員の意識を共有した結果、「授業がわかる」に肯定的な回答をした児童は90%となり、成果指標を達成することができた。しかし、全国・県調査においては目標値に届かなかったため、基礎基本の徹底や、さらなる授業改善などの課題も残った。理解が不十分とみられる内容の復習を徹底し、次学年につなげていく。 ・「心の教育」「健康・体づくり」「地域との連携」については、本来の活動を振り返りつつ、行事精選の視点も入れて適切に実施することができた。特に「心の教育」における教師の児童を認める姿勢については、校内研究でも意識したことから成果を得ることができた。次年度以降も継続して実施していく。
----------------	--